

杉原邦生演出

KUNIO16

ゴドーを 待ち ながら

原作 | Samuel BECKETT

“EN ATTENDANT GODOT”

翻訳 | 河合祥一郎

演出・美術 | 杉原邦生

出演 | 小田豊

外山誠二

大村わたる

リー5世

中山翔貴

2024年 6月 22日 [土] - 30日 [日]

KAAT 神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

とある公演の終演後、楽屋のベンチで雑談しながら、何の気なしに「今後演ってみたい戯曲ってあるんですか?」と尋ねたとき、小田豊さんは「死ぬまでに『ゴドー（を待ちながら）』を演りたい」と、即答してくれました。『ゴドーを待ちながら』は、僕自身いつか上演したいと思い続けていた作品のひとつでしたが、KUNIOの企画会議で何度か候補にあがっても、その度、いま（その時）ではない気がして、先送りになっていました。だから、なんだか勝手に運命的なものを感じてしまい、その場で「じゃあ、KUNIOで企画していいですか?」と言ってしまいました。こうして、今回の上演は思いもかけないきっかけからスタートしたのです。

僕たちは、忙しく日常を動き続けているとき、〈動かぬもの〉に気づけないことがあります。その〈動かぬもの〉とは、物理的に存在しているものだけではありません。終わりの見えない課題、変えようのない事実、答えのない問い、自分の中にある感情、記憶——もしかすると、僕たちはいつも、それら〈動かぬもの〉に気づけていないのではなく、気づけていないことにしているだけなのかもしれません。なぜなら、そのものたちに真剣に目を向けようとしたとき、僕たちの思考もまた、忙しく動き続ける日常の中で〈動かぬもの〉になってしまうからです。

小田さんと『ゴドー』を演ろうという話をして、さっそく戯曲を読み直してみたとき、なぜか、涙が溢れてきました。あの場から動かぬ二人の男たちは、必死に〈動かぬもの〉に対峙しようとしている、そう見えたからなのかもしれません。そして、あのとき何の気なしに聞いていた小田さんの「死ぬまでに」という言葉が、僕の中に〈動かぬもの〉として残っていたからなのかもしれません。

目まぐるしく動きつづける現代で、僕たちはいま、多くの〈動かぬもの〉にどう向き合うべきなのか。そんなことを考えながら、KUNIO版『ゴドーを待ちながら』をつくっていきたいと思っています。

杉原邦生

▶ KUNIO official website

<https://kunio.me>

KAAT
KANAGAWA ARTS THEATRE

今回の上演にあたって

『ゴドーを待ちながら』は、サミュエル・ベケットが1952年にフランス語で初出版し、その翌年にパリで初演されて以降、不条理演劇の代名詞として演劇史にその名を残し、今日まで多くの演出家によって上演続けられている戯曲です。今回、KUNIOでは、2016年に河合祥一郎氏が主宰する“Kawai Project”での上演時に新翻訳を行った台本（未出版）を元に上演を行います。

前文略)

私はまよわず1952年のフランス語版を、ベケット自身の英語版を参照しながら、新たに訳すことにしました。但し、既訳とは異なり、1952年の初版ではなく同年に出た第二版を底本にしなければならないと判断しました。第二版こそが英語版の元になっており、ベケット自身が改定を加えた版だからです。

この作品をどう解釈するかは、ベケットの書いた原文をどう解釈するかに大きくかかってきます。師を乗り越えることができるかどうかはわかりませんが、そう務めるのが弟子としての義務でしょう。シェイクスピアのみならずベケットにおいても、やらねばならぬ仕事が多々あると思うのは、最期の病床でベケットの本を求めたほどベケットを愛した師の思いを継いでいかなければならないと思うからです。

河合祥一郎

Kawai Project vol.3『ゴドーを待ちながら』(2016年) 挨拶文より一部抜粋

河合氏は翻訳にあたって、1952年にミニユイ社が刊行したフランス語第二版を底本としています。その理由として1953年1月5日にパリのバビロン劇場で初演後、ベケット自身が英訳し1954年にニューヨークのグローヴ・プレス社から出版した英語初版が、フランス語第二版をもとにしているからで、細かな幾つかの表現において、ベケット自身が改定を行い第二版としたことが明白であるため、と記されています。

河合氏の翻訳には注釈が添付されており、フランス語版初版と第二版（英語版）との違いが詳細に記されています。KUNIOでは今回、その注釈を頼りに、言葉の変化ひとつひとつを丁寧に見つめ直し、時に河合氏とのディスカッションを交えながら、ベケットの思考の変遷を辿るようにして台本を整理していきました。翻訳により原作のもつ力が最大限に引き出された上演台本とともに、現代の観客へダイレクトに届く『ゴドーを待ちながら』を目指します。ご期待ください。

杉原邦生演出 KUNIO16 ゴドーを待ちながら

2024年 6月22日 [土] - 30日 [日] KAAT 神奈川芸術劇場 〈中スタジオ〉

6月	22日 [土]	23日 [日]	24日 [月]	25日 [火]	26日 [水]	27日 [木]	28日 [金]	29日 [土]	30日 [日]
13:00		★AT①	☆レクチャー		休演日		★AT②	●	●
15:00	◎プレビュー								
17:30				☆レクチャー					
18:00						○夜割			

- ◎ 22日 [土] 15:00 | プレビュー公演（一般チケットが4,500円になります）
- ★ 23日 [日] 13:00 | 終演後、翻訳の河合祥一郎と杉原邦生とのアフタートークあり
- ☆ 24日 [月] 13:00 | 13:00から河合祥一郎によるプレレクチャー、13:40より本編上演開始予定
- ☆ 25日 [火] 17:30 | 17:30から河合祥一郎によるプレレクチャー、18:10より本編上演開始予定
- 27日 [木] 18:00 | 夜割引対象公演（一般チケットが5,000円になります）
- ★ 28日 [金] 13:00 | 終演後、劇作家・演出家の松井周、山本卓卓と杉原邦生とのアフタートークあり

チケット料金 (税込) [全席自由席・入場整理番号付]

- 一般 5,500円
- プレビュー割引 (6/22のみ) 4,500円
- 夜割引 (6/27のみ) 5,000円
- 25才以下割引 (前売のみ) 3,500円

* 受付開始は開演の45分前、開場は30分前より。* 未就学児はご入場いただけません。

* 一般料金のチケットで年齢割引の対象者様が入場されても差額の返金はできません。

また、年齢割引のチケットで一般の方がご入場される際は、公演当日に受付で差額のお支払をお願いいたします。

* 25才以下割引は前売のみが対象。* 25歳以下割引はイープラスでのお取扱いはございません。

* 公演中止の場合を除き、ご予約・ご購入いただきましたチケットのキャンセル・変更は承れません。

* やむを得ぬ事情により、記載内容・公演情報などに変更が生じる場合がございます。

チケット一般発売 5月18日 [土] 10:00

チケット先行発売 5月12日 [日]

KUNIO official website、KAmE 先行 (かながわメンバーズWEB先行販売)

- チケット取扱
- ・ KUNIO official website <https://kunio.me>
 - ・ チケットかながわ
 - ・ チケットぴあ
 - ・ イープラス

お問い合わせ KUNIO Mail | info@kunio.me



KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281
TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691
<https://www.kaat.jp>

- みなとみらい線：渋谷駅から東横線直通で35分! 横浜駅から6分! 日本大通り駅から徒歩約5分。元町・中華街駅から徒歩約8分。
 - JR根岸線：関内駅または石川町駅から徒歩14分。
 - 市営地下鉄：関内駅から徒歩14分。
 - 市営バス：芸術劇場・NHK前すぐ。
- 横浜駅前東口バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約25分)
桜木町駅前バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約10分)
※上記のりばから発車するバスはすべて「芸術劇場・NHK前」を通ります。
- 神奈川芸術劇場有料駐車場 (65台) もご利用下さい。
- 指定管理者: (公財) 神奈川芸術文化財団

